

## T3 Photo Festival Tokyo 2020 Pre-Event ①

首都圏の美大・専門学校で写真を学ぶ  
学生たちの写真展

## 『Photo School Now !』

9月14日（土）～10月24日（木）

7:00～23:00 入場無料

JR上野駅正面玄関口ギャラリー 2F

Breakステーションギャラリー



武蔵野美術大学 王露

首都圏の美術大学と専門学校7校で写真を学ぶ学生7  
名の写真作品を紹介する展覧会を、上野のBreakス  
テーションギャラリーにて開催します。

本展は、東京で開催される唯一の国際写真フェスティ  
バル「T3 Photo Festival Tokyo」のプレイベントとし  
て開催されるもので、本展会期終了後の10月26日  
（土）、27日（日）には、展覧会の参加校に加えて、  
女子美術大学、日本大学、東京ビジュアルアーツの合  
計10校が参加する、ポートフォリオ展を東京藝術大学  
にて開催。約70名のポートフォリオを展示します。こ  
れだけの規模で首都圏の写真学生たちの作品を一望で  
きる機会は、なかなかありません。

写真とは、その時代を反映するもの。それゆえに、若  
者たちが捉える世界の視点から、見えてくる“今”があ  
るはずです。この中から、将来の日本の写真界、アジ  
アの写真界をリードする作家が出てくることを願いま  
す。ぜひ、これからの有望な学生たちの作品を観に、  
足をお運びください。



東京藝術大学 トミモとあきな



日本写真芸術専門学校 董林

主催：T3 Photo Festival Tokyo 実行委員会

企画運営：Breakステーションギャラリー運営事務局

T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO実行委員会（一般社団法人Tokyo Institute of Photography内）

担当：速水惟広、菅沼比呂志

東京都中央区京橋3-6-6 エクスアートビル1F

E-mail：[t3photofestival@gmail.com](mailto:t3photofestival@gmail.com) TEL：03-5524-6991

1/4

## 【出品作品】

### ●武蔵野美術大学 王露 (Wang Lu)

「時間の風、そのまま」

故郷に暮す父は、私が12歳の時、事故により脳に不治の障害を患った。それ以来、彼の世界は時間の感覚を失った。

私の故郷は中国の地方都市である。近年、新しい市長が推進している「都市づくり計画」はこの都市に大きな変化をもたらし、家を離れて十数年の私は故郷に帰る度、異郷に來たと感じるようになった。それに反して、故郷に暮らす人々の話し方や服装などは十数年前とは変わらず、その様子は都市とは対照的である。父の意識の中で、私は未だ、そして永遠に故郷の小学校に通っている。しかし、現実の私は、彼の世界とはパラレルな世界で生きている。私はもう、本当に彼にとっての「他人」なのかもしれない。

現実の世界とは異なる時間を生きる父も、都市化が加速する環境から取り残された人々も同じなのかもしれない。時間の風は吹き続けていたけれど、そのまま何も変わっていなかった。

### ●東京藝術大学 トミモとあきな (TOMIMO + AKINA)

「マモノ」シリーズより

虚実の中からの真実を探求する試みを「マモノ」という表題にのせて制作した。マモノとは、自分自身のことであり、同時に他者のことでもある。人は移ろう時間に流されながらも、様々なモノコトヒトに出逢いながら生きる。時間に縛られながらも、毎日に出逢いにあふれている。写真に写るのはマモノの分厚い皮膚に覆われている一番外側の部分にすぎない。マモノは分厚い皮膚の内側に住んでいる。それでも、マモノはたまに皮膚から外側に顔を出す。その瞬間にマモノは写真に写る。

### ●日本写真芸術専門学校 董林 (Dong Lin)

「JYO」

イギリスの女性作家ジョーン・スミスは「男はみんな女が嫌い」という本を出版し、現代社会における女性に対する差別意識を強く批判した。現に、私たちの思想と言論は、ある程度サブカルチャーから影響を受けている。インターネットを通し、女性に対する偏見も、サブカルチャーというメディアに乗り、世界中に広がっている。「黒木耳」や「緑茶ピッチ」など、女性蔑視を示している言葉が中国で流行するにつれ、女性たちに対して、関係のない偏見が無理矢理加えられている。日本語では、JYOを「女」と書き、「女性」を示している。「JYO」は、シャッターの音でもある。「JYO」の音とともに、鼻くそ、しわ、雀斑＝外見の下に隠された中身の美しさ、写真の上で花のように咲いた。ミソジニーの主張者たちも、女性に目を開かされるだろう。ここで、私が撮った女性たち「JYO」とは一体何なのか、固有な概念や経験を捨て、「女」と「JYO」の関係性を探し出そう。

### ●東京工芸大学 中崎大河 (Taiga Nakazaki)

「Between dogs and wolves」

アート作品を見ることと自然を見ることは、何か本質的に共通点を持っているのではないか。

2019年、6月にイタリアやスイスなどヨーロッパ各地を巡る中で芽生えたこの仮定を出発点として、過去に撮影した写真を使用したり、新たにイメージ制作を行い、アートと自然の本質的な関係を視覚的に提示しようと試みるのが今回の作品である。

### ●多摩美術大学 Meg Omori (Meg Omori)

「アマリス」

母が死んでも細部まで思い出せるように 彼女の肖像を撮り続けています。母が大切に育てたアマリスのつぼみと彼女自身の姿が似て見えたので 題名にしました。

### ●東京造形大学 中山諒 (Makoto Nakayama)

「充滿・律動」

散らばった熱を、散らばったままあつめることは可能だろうか? なにもかもが混沌としているこの場所では、ほんとうは切り分けることなんてできないし、白黒つけることもできないのだとおもう。私たちはもっと複雑で、混然とした存在である。この場所でシャッターを切れば、なにもかも光にうたれて死んでしまうような気がしたし、すべてをミキサーにかけて、あらゆる境界線をごちゃごちゃにしてしまえるような気もした。できるだけ、正確なものを目の前に。曖昧さを併せもった正確なものを目の前に。すべてはあらかじめ用意されていたとしても、なにひとつ所有できていなくても、散らばった熱が、散らばったまま存在できるように。呪いから解放されたものが、目の前にありありと立ちあらわれ、ひとりぼっちでみんなという、そんな写真を望んでいる。

### ●東京総合写真専門学校 金本凜太郎 (Rintaro Kanemoto)

「0.969」

夜の看板を完全な真横から見た時、記号的な情報が見えなくなると同時に、まるで金環日食のように天体的な魅力を放つことに気付いた。

0.969とは、2012年に日本で観測された金環日食における食の最大値である。



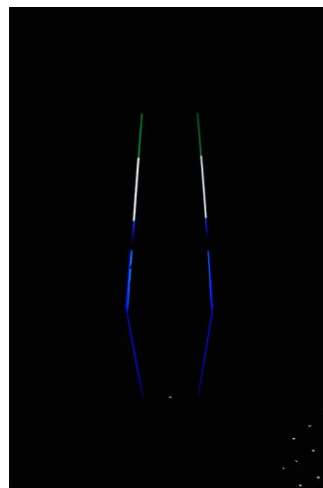
東京工芸大学 中崎大河



多摩美術大学 Meg Omori



東京造形大学 中山諒



東京総合写真専門学校  
金本凜太郎

## T3 Photo Festival Tokyo 2020 Pre-Event ②

### ■選ばれた学生たちの中から、未来の日本を代表する写真家を探すポートフォリオ展

東京で写真を学ぶ10の美術大学・専門学校から選抜された約70名の学生の作品集（ポートフォリオ）が、一堂に揃います。これからの時代を担う若者たちの作品が一望できます。

会期：10月26日(土)～27日(日) 10:00-17:00

会場：東京藝術大学 美術学部中央棟 第三講義室

参加大学：東京藝術大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学、東京工芸大学、日本大学芸術学部、東京造形大学、女子美術大学、日本写真芸術専門学校、東京総合写真専門学校、東京ビジュアルアーツ

### ●学生によるプレゼンテーション

ポートフォリオ展参加校の各代表者1名ずつが作品をプレゼンテーションしてくれます。

10月27日(日) 10:30 -12:30

会場：東京藝術大学 美術学部中央棟 第一講義室

## T3 Photo Festival Tokyo 2020 Pre-Event ③

### ●「T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO PORTFOLIO REVIEWS」

10月25日（金）

会場：Tokyo Institute of Photography

レビュアー（予定）：

ヤン・ヨー（Jiazazhi出版社／中国）、キム・ジョンウン（IANN編集者／韓国）、呉嘉寶（キュレーター／台湾）、金升坤（写真評論家／韓国）、グウェン・リー（シンガポール国際写真祭ファウンダー）、沈昭良（写真家、フォトアイディレクター／台湾）他

# T3 Photo Festival Tokyo 2020 Pre-Event ④

## アジアトップの写真関係者によるトークショー

10月26日(土) 13:00-18:30 / 27日(日) 10:30-16:00

会場：東京藝術大学 美術学部中央棟 第一講義室

### ●トークショー（１）

#### 「アジアにおけるフォトフェスティバル — その役割、ミッション、コンセプト、作品の見せ方」

10月26日（土） 13：00 - 15：00

映里（三影堂撮影芸術中心創設者／日本）、グウェン・リー（シンガポール国際写真祭ファウンダー）、矢ノ目俊之（東川町国際写真フェスティバル／日本）、沈昭良（写真家、ヤングアート台北ーフォトアイディレクター／台湾）、平井政俊（建築家、T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO展示ディレクター／日本）

聞き手：小高美穂（キュレーター／日本）

### ●トークショー（２）

#### 「東アジアの写真を理解するための写真史」

10月26日（土） 15：30 - 18：30

呉嘉寶（キュレーター／台湾）、金升坤（写真評論家／韓国）

聞き手：菅沼比呂志（キュレーター／日本）

### ●トークショー（３）

#### 「フォト・パブリッシング・ナウ！」

10月27日（日） 14：00 - 16：00

ヤン・ヨー（Jiazazhi出版社／中国）、キム・ジョンウン（IANN編集者／韓国）、中島佑介（TOKYO ART BOOK FAIR／日本）

聞き手：松本知己（T&M Projects／日本）

\* 上記トークショーゲストは予定です。

### ○第6回東京国際写真コンペティション受賞者 国際巡回展 「Need / Want」

10月16日（水）～ 27日（日）

受賞作家名：Seunggu Kim、Lebohang Kganye、Diambra Mariani、ミナミノリタカ、Maria Sturm、Rhulani Anthony Bila、Jaakko Kahilaniemi、Boyuan Zhang

会場：72 Gallery (Tokyo Institute of Photography)

東京都中央区京橋 3-6-6 ExArt Bld 1F

T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO実行委員会（一般社団法人Tokyo Institute of Photography内）

担当：速水惟広、菅沼比呂志

東京都中央区京橋3-6-6 エクスアートビル1F

E-mail：[t3photofestival@gmail.com](mailto:t3photofestival@gmail.com) TEL：03-5524-6991

4/4